4. Edwin Mulongoti 小学校の給水改善（ザンビア）

- 実施団体：　Child Youth Intellects for Change（CYIC）（#226）
- 実施地：　ザンビア ルサカ州 ルサカ地区 リランダ共同体
- プロジェクト費用：1,643.38ドル（JWFファンド1,500ドル、団体143.38ドル）
  予算：1,584.77ドル（JWFファンド1,500ドル、団体　84.77ドル）
- 受益者数：　2,127人（男性20人、女性15人、子ども2,092人）
- 実施地の水問題：
  Edwin Mulongoti 小学校には貯水槽3基と打ち抜き井戸施設があっても慢性的な水不足だった。電力会社ZESCOの給電に井戸ポンプが依存していたので、頻繁な停電で稼働と貯水能力を大きく制限され、貯水槽を満たすことも必要な水供給もできなかった。水不足により、トイレに水がない等の不衛生な環境となっていた。栄養指導や環境教育に不可欠な果樹園や菜園の存続も脅かされていた。CYICは第4の貯水槽を寄贈して貯水能力向上を図ったが、停電は未解決だった。

【実施前】

菜園に水やりをできない生徒たち

満たされない既設貯水槽4基

設置希望するインバーター、太陽光パネル

- 主な活動内容：　太陽光パネルを既設井戸水中ポンプの電源に追加した。貯水槽4基の効率運営、学校職員向け維持管理研修、生徒向け衛生教育セッション等。
- 特長（持続性）：　SWGMC（学校水園芸維持管理委員会）の設立。委員会には教職員や生徒が参加、適切な施設の使用を学び衛生意識を向上した。PTAや保護者は資金や資材の調達、地域住民はボランティア支援で関与する。
- 実施団体：　CYICは、2017年に設立された登録非営利団体。子どもや若者に識字能力、環境の持続可能性、地域社会のレジリエンス（回復力）の促進活動を提供している。この学校ではKubelenga na Kulima (To Read and Garden)という識字力向上と園芸を通じた気候変動への関心喚起運動を行っており、当プロジェクトもその一環である。

4. Edwin Mulongoti 小学校の給水改善（ザンビア）

【実施中】

太陽光パネル設置

水中ポンプ接続

太陽光電力通水試験

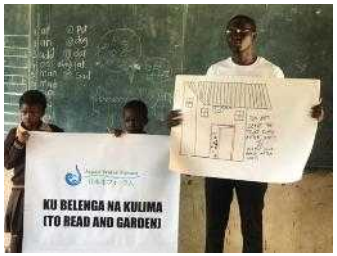
ポンプ補修通水試験

太陽光発電システム研修

用務員兼園芸指導者と
CYICマネージャー

引き渡し式
太陽光パネル下で全校衛生WASH気候変動研修

【実施後】



教室での衛生WASH
気候変動研修

水栓を使う生徒

学校園芸の成果と生徒

Mr. Ngwenya （57歳）

ングウェニャ校長先生はJWFファンドとCYICに太陽光発電システムの設置への深い感謝の意を表した。2026年1月19日から4日間停電したけれども、従来ならば休校するところを太陽光給水システムのおかげで水供給が途切れず、児童や周辺地域の住民に影響しなかったと述べた。

Ms. Felistas Zulu （52歳）

フェリスタスさんは、水が常に利用できる喜びを語った。以前は夜遅くでも通電回復すると、起きてポンプ操作をした。今や、その必要性はなくなった。十分に水が貯水されるようになり学校園芸への散水はいつでも可能なので、食料は増産して身体の負担も軽減したと強調された。

Mr. Joseph （13歳）

ジョセフ君は、クベレンガ・ナ・クリマの活動に参加することを興奮して語り、気候変動の影響やその解決策について実体験を通して学んでいるそうだ。このプロジェクト以前の学校園芸には水不足が影響していたが、今は太陽光再生可能エネルギーによって水利用ができていると話した。また、衛生クラブ活動で前向きな活動に参加するので、様々な悪い影響から遠ざかっていられると付け加えた。

Ms. Brandina Kunda （12歳）

ブランディナさんは、2024年の「リトル・ミス知性・ザンビア」才能コンテストで自身が代表して示したSDG目標7「クリーンエネルギーと水・衛生」が、かつて通った学校の太陽光電源化で実現されたので誇りに思ったとのこと。彼女は卒業した学校がクリーンエネルギーの恩恵を受けているのを見ると、気候変動対策・教育・持続可能な開発推進を若者たちへおすすめするときの励みになると語った。